

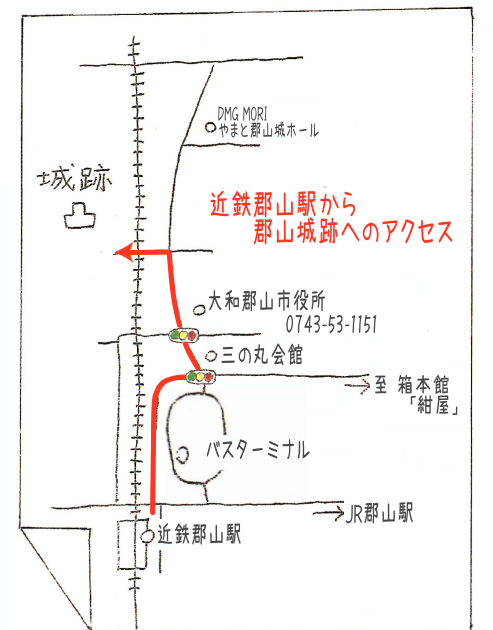
郡山城跡案内絵図

城跡の樹木

〇梅(盆梅展)
2月中旬～3月初旬

〇桜(お城まつり)
3月下旬～4月初旬

〇さざんか 〇椿
〇あせび 〇雪柳
〇れんぎょう 〇木同
〇センダングサ 〇サツキ
〇イトヨリ 〇もみぢ
〇キンモクセイ 〇楠
〇どうだんつばき
〇松 〇つげ
〇モチ 等々



この地図は2026年5月調査に基づいて作成
発行 (一社)大和郡山市観光協会 0743-52-2010
企画・制作 みちるべの会
後援 大和郡山市まちづくりアイデアサポート事業

① ～ ③ 句碑・歌碑・詩碑
(詳しくは裏面をご覧ください)
④ 石碑マーク
⑤ 山高神代桜
(山梨県北杜市・柳澤史跡保存会からの寄贈)



史跡郡山城跡散策

☆郡山城の歴史

郡山城の築城は天正 8 年（1580）、筒井順慶が筒井から郡山に移った時に始められました。天正 13 年（1585）8 月には、豊臣秀吉の弟秀長が郡山城に入城。秀長は紀伊、和泉、大和の三ヶ国百万石の太守・大納言として城の大拡張工事を行いました。壮大な高石垣は荒々しい野面積み（のづらづみ）で、寺院の礎石、庭石、五輪塔、石地蔵などが用いられています（転用石材）。

また、秀長は城下町繁栄のため、奈良や堺の商人や職人等を郡山に呼び寄せて箱本十三町をつくりました。箱本十三町は、免税（地子免除）とする代わりに一ヵ月の当番制で自治活動（治安・消火・伝馬等）を行う「箱本制度」を導入した町として知られています。

秀長の死後、増田長盛が 20 万石で入城し、秋篠川の付け替えや溜池をつないで周囲が 50 町 13 間（約 5.5Km）の外堀を完成させました。

徳川時代となって水野勝成、松平忠明、本多政勝、松平信之、本多忠平など徳川譜代の城主の後、享保 9 年（1724）、柳澤吉里が甲府より 15 万石で入城し、郡山柳澤氏は 6 代 145 年間続きました。明治 2 年（1869）、柳澤保申が最後の藩主であった時に版籍奉還となり、明治 6 年（1873）には政府の方針により城郭が全て入札売却されました。

「郡山城跡」は、平成 29 年（2017）4 月 6 日、「続日本 100 名城」に選ばれ、さらに令和 4 年（2022）11 月、国の史跡に指定されました。

☆天守台

郡山城の天守台は本丸の北端部に位置しています。上面で約 16×18m、基底部で約 23×25m、南北に少し細長い長方形で、高さは約 8.5m あります。そして、南側に高さ約 4.5m の付櫓台が取り付く「複合式天守」の形態となっています。また、天守台の標高は 81m で眺望がよく、東側に若草山、東大寺大仏殿、興福寺の五重塔、薬師寺、平城京跡など、また、西側に矢田丘陵、明神山、二上山雄岳、葛城山、金剛山などが遠望できます。

天守台の野面積みの石垣には沢山の「転用石材」が積み込まれていて、なかでも天守台北面石垣の築石としてさかさまに積み込まれている「逆さ地蔵」が有名です。

平成 25 年（2013）度から、崩落の恐れがあった天守台の石垣の修復と、展望施設の整備が行われました。それに先立つ発掘調査で、天守の礎石列、金箔瓦等が見つかり、1 階部分が 7×8 間の天守が豊臣政権期に確かに建てられていたことが確認されました。そして、平成 29 年（2017）3 月 26 日、「郡山城天守台展望施設」が完成しました。

☆柳澤神社

明治 13 年（1880）、旧藩士によって創建。祭神は柳澤藩の開祖柳澤吉保公。

☆極楽橋

令和 3 年（2021 年）、極楽橋が明治 6 年（1873）の郡山城廃城以来約 150 年ぶりに再建されました。天守曲輪と東側の毘沙門曲輪を繋ぐ橋で、江戸時代は本丸登城のための正式な入口となる重要な橋だったとされています。

☆柳沢文庫

昭和 35 年（1960）、郡山城跡が県の史跡指定になったのを機縁として財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会として発足（柳澤藩の諸記録、郷土資料などの保存、城跡維持管理など）。

☆城址会館

昭和 43 年（1968）に奈良県立図書館（明治 41 年築）を譲り受け、郡山城跡に移築開館しました（昭和 45 年（1970）竣工）。平成 9 年（1997）に県の有形文化財に指定されました。

☆追手門

「明日のお城と城下町を考える会」などの市民運動により、豊臣秀長築城当時に近い形で昭和 58 年（1983）追手門が復元され、続いて追手東隅櫓、追手向櫓、多聞櫓などが昭和 62 年（1987）にかけて再建されました。

☆郡山城情報館

郡山城のジオラマやパネル展示・バリアフリースイレがあります。

☆郡山城の御殿桜

明治になって、城郭が取り払われた郡山城跡にたくさんの桜が植樹されました。「御殿桜」と呼ばれ、当時からぼんぼりを設置し「夜桜」も楽しまれていたそうです。今では春には約 800 本の桜が咲き誇り、たくさんの人でにぎわいます。

平成 2 年（1990）に「郡山城址公園」が「日本さくら名所 100 選」の地に選ばれました。ソメイヨシノをはじめ大島桜、山桜、しだれ桜、八重桜などたくさんの種類の桜があり、長いあいだ花を楽しむことができます。

☆お城まつり

3 月下旬から 4 月初旬まで、「お城まつり」が盛大に開催されます。明治以来の伝統を持つ金魚品評会、源九郎稲荷神社の白狐渡御や時代行列など数多くの行事があり、郡山城跡では夜桜も楽しめます。

また、天守台やその周りの石垣の中に眠る多数の石仏、五輪塔などの無縁仏や、城史有縁の諸霊を慰めるため、市民有志の浄財で奉納された大数珠（全長 162m、珠の直径 15cm、1080 個）で天守台を取り巻き、永慶寺、発志禅院、春岳院のご協力を得て、「数珠くり法要」が行われます。

☆郡山城跡の句碑、歌碑、詩碑

①「十五万石の城下へ 花の坂」青畝・・・・・・松の坂、鉄御門跡石垣の対面に阿波野青畝の句碑

②「大和また 新たなる国 田を鋤けば」誓子・・・・・・・・・・城址会館西側に山口誓子の句碑

③「菜の花の 中に城あり 郡山」許六・・・・・・・・・・城址会館前に森川許六の句碑

④「ぼうせきの煙突」小野十三郎・・・・・・・・・・城址会館南側に小野十三郎の詩碑

⑤「天地の 神にぞ祈る 朝なぎの 海のごとくに 波立たぬ世を」昭和天皇御製・柳澤神社拝殿前

⑥「金魚とねこ」森口武男・・・・・・・・・・郡山高校表門跡塀際に森口武男の童謡詩碑

⑦「むら立ちて 咲く蓮のはな そと濠の たかいし垣に 朝日照りつつ」耕平詠
・・・・西公園（城址公園）南端に土田耕平の歌碑

※①～⑦は表面絵図に表示

（みちしるべの会）